

# 国語科（古典探究）学習指導案

- 1 履修単位数 3単位  
2 実施日時 令和 6年 月 日（ ）第 時限  
3 学 級 ○○HR（ 名）  
4 使用教科書 『高等学校 精選 古典探究』（第一学習社）  
5 単 元 名 「男」への返歌を考える活動を通して、当時の人々の考え方を理解する  
（『伊勢物語』『初冠』）

## 6 単元設定の理由

### (1) 生徒観

本学級には、古典の学習に意欲的に取り組もうとする生徒もいれば、苦手意識をもっている生徒もあり、学力に大きな差がある。一方で、普段の授業ではペア活動を積極的に実施しているため、本文の読み合いや話し合いには慣れている生徒が多い。一学期当初には「小式部内侍が大江山の歌の事」（『古今著聞集』）において、和歌の修辞法について学習している。

### (2) 教材観

本教材は短い文章であり、主人公の「男」の行動も明確に書かれているため、古典に苦手意識をもつ生徒も読みやすいのではないかと考える。また、恋愛観や和歌の評価基準など、古典常識にも深く関わっている。当時の人々のものの見方、感じ方、考え方を理解し、自分の考えを広げたり深めたりできる教材であると考えます。

### (3) 指導観

文法指導や語句の解説を適宜行いながら本文を読み進めることで、古典に関する語彙力の向上を図る。また、「男」の心情や行動を踏まえて和歌を読み解かせ、「いちはやきみやび」の解釈を行う。さらに、「男」への返歌を考えさせることを通し、当時の恋愛観など当時の人々のものの見方、感じ方、考え方を理解させたい。

## 7 単元の目標

- (1) 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1) ア  
(2) 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕A (1) カ  
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。  
〔学びに向かう力、人間性等〕

## 8 本単元における言語活動

本文に表れている当時の恋愛観を踏まえ、「男」への返歌を考え、発表する。

〔思考力、判断力、表現力等〕A (2) ウ

## 9 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1) ア)	①「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ((1) カ)	①語句の意味や用法など、これまでの学習を生かして物語の内容を把握するとともに、「男」への返歌を作成することを通して、当時の人々のものの見方、感じ方、考え方を積極的に理解しようとしている。

## 10 指導と評価の計画（全6時間）

次	学 習 活 動	評価規準・評価方法
第1次 (1時間)	『伊勢物語』についての基本的事項を確認する。全文を音読し、語句や文法事項の確認をする。	〔知識・技能〕① 「記述の確認」
第2次 (4時間)	全文を現代語訳する。「男」の心情や行動を、本文の展開に沿って理解する。和歌の修辞技法を確認し、二首を比較して「いちはやきみやび」とは何かについて理解する。	〔思考・判断・表現〕① 「記述の確認」
第3次 (1時間)	当時の恋愛観を踏まえ、「男」への返歌を考え、発表する。 (本時1/1)	〔主体的に学習に取り組む態度〕① 「記述の確認」

## 11 本時の目標

本文に表れている当時の恋愛観を踏まえ、「男」への返歌を作成して発表することを通し、当時の人々のものの見方、感じ方、考え方を理解することができる。

## 12 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導入 5分	・本時の目標を確認する。	・「男」への返歌を作成することを伝える。		
展開 40分	・当時の恋愛観を理解する。  ・「春日野の……」の和歌の訳を確認する。	・当時の恋愛は、垣間見や噂から始まり、歌のやり取りを経ていたということを確認させる。  ・前時までに学習した訳を確認する。		
	・「女はらから」の気持ちになって、グループで返歌を考える。  ・各班の返歌を発表し、相互評価を行う。	・MetaMoJi Classroomの共有シートを用いて作成させる。 ・和歌の作成条件を指示する。 ①字余り・字足らずは可。 ②現代語で作成してもよい。 ③「春日野の……」の和歌に出てくる語句を1つ以上使う。 ④訳(解説)と工夫した点も書く。 ・レベルアップとして、現代語で作った和歌の一部を古語にすることを提示する。  ・MetaMoJi Classroomの画面を黒板に映す。 ・タブレットで相互評価を行う。	「主体的に学習に取り組む態度」① ・「男」への返歌を作成することを通して、当時の人々のものの見方、感じ方、考え方を積極的に理解する。	「記述の確認」 (MetaMoJi Classroom)
まとめ 5分	・本時を振り返り、感想を書く。			

## 13 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	「男」の心情を踏まえ、古語を用いながら返歌を作成している。当時の人々の恋愛観を理解し、自分の考えを広げたり深めたりしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	「春日野の……」の和歌のポイントとして、古歌から詠み替えている部分を指摘し、どの語句を使うかを考えるヒントを与える。上手く表現できない場合に支援する。